

KOBELCO

金属 / 建物解体 / 産廃 / 林業 》現場を支えるコベルコ機

コベルコ建設
機械 ニュース別冊

環境建機レポート

Vol.21
産廃編

最新鋭の産廃仕様機

SK75SRD-7Rで
作業効率&安全性アップ!



①永田重機土木の産廃処分場で稼働する、産廃仕様機SK75SRD-7R。ダンプやアームロール車で運びこまれた産業廃棄物を、軽快な動きで分別する ②産廃処分場の全景。土砂捨場、プラスチック、解体木くず、混合廃棄物選別場、焼却廃棄物、石膏ボード、コンクリート塊、がれき類、汚泥と、品目ごとに処分場が分けられ、調整池もある。SK75SRD-7Rは主に混合廃棄物選別場で使われている ③産廃処分場の責任者で、資源循環部部長の岩下茂樹さん。SK75SRD-7Rを導入して最も印象的なのは燃費の良さだという ④処分場内には焼却炉もあり、機械はそこへの廃棄物投入にも用いられる ⑤iNDRフィルタが装備されているエンジン部分。ファン羽根の向きを変え、逆噴射して塵埃を排出する機能は購入の大きな動機となった ⑥オペレータの平山三也さん。「SK75SRD-7Rは、操作しやすく乗り心地も良い。オプションの右前方のガードがあることで、「分別しているモノが跳ねてきても大丈夫」という安心感をもって作業ができます」 ⑦SK75SRD-7Rで分別した廃棄物は、人の手でさらに細かく分別していく。こうした作業では、人と機械の距離がどうしても近くなる ⑧この産廃処分場では、中間処理(焼却、破碎、選別)と、安定型5品目の最終処分(埋め立て)が可能だ



課題 産業廃棄物処分場の作業効率、安全性を高めたい

対策 最新鋭の産廃仕様機を導入

結果 効率アップと安全性、防塵性の向上を実現し、産廃分別作業の現場を変える

最新鋭の産廃仕様機の導入で 作業効率、安全性、防塵性を大幅に改善

鹿児島県を中心に、道路や港湾などの土木事業、建物解体、産業廃棄物処理などを手がける永田重機土木。同社では、2020年5月に自社の産業廃棄物処分場にコベルコ建機の産廃仕様機SK75SRD-7Rを導入した。再資源化やリサイクル需要の増加に際する安全な作業に向け適進している。



代表取締役
永田雄一さん

「父がブルドーザー1台で創業し、従業員は家族が中心という小さな会社でした」と、創業者である永田義雄さんの長男で、98年か

ら代表取締役を務める永田雄一さんは語る。そこから鹿児島県内を中心に、道路整備などの土木作業を請け負って成長。今では50台以上の建機やダンプを有し、社員も80名を抱える規模となった。

この成長を支えたのが、産業廃棄物処理だ。土木事業では大量の土砂やがれき、腐材などが発生する。そこで92年に同社は、鹿児島県吉野町に産業廃棄物処分場を建設。自社はもちろん、他社の工事

で出る廃棄物の運搬や処理も請け負うことで、一般土木と並ぶもう一つの事業の柱となった。「当社が土木工事と廃棄物処理を一括で請け負えることは、お客様にとっても大きなメリットになっていると思います。産業廃棄物に関する規制は時代とともに厳しくなっていますが、それに適合させる努力を続けています」(永田さん)

産廃処分場をつくった翌年(93年)8月、鹿児島県は台風による豪雨被害を受けた。家屋や道路が甚大な被害を受けた。その復旧時に大量の廃棄物処理の発生が発生したことも、同社がこの事業に注力してきた理由となっている。

産廃処分場への 新型機導入を決意

会社の成長に伴い、永田重機土木で保有する建機の数も増加していった。永田さんいわく、特定のメーカーにこだわらずに、さまざまな機械を購入してきたなかでもコベルコ建機との関係は長いという。「父はユタニ(油谷重工)の機械を非常に気に入っていました。私自身も、構造・性能ともに素晴らしいコベルコの建物解体専用機を高く評価し、購入しています」(永田さん)

コベルコ建機の解体機に対する信頼もあり、同社は産廃処分場に最新のSK75SRD-7Rを新車で導入した。

「産廃処理の現場では、従来、建設現場などで使われた古い機械を回すことが常でした。しかし、老朽化した機械から油が漏れ、調整池から川に流れる事故が起ころといった問題もありました。こうした現状を変えたいという想いと危機感が

ら、新しい機械を導入したのです」(永田さん)

操作性、安全性で 産廃分別作業を変える

SK75SRD-7Rを導入したのは約1年半前。小型かつ高性能である点が大きな魅力だった。特に、フィルタに付着した埃やゴミを排出する逆噴射機能であるiNDR+Jは、永田さんが待ち望んでいた機能。粉塵の多い現場だが、これまで一度もなく、燃費も大幅に改善したという。

同機が担う主な仕事は、産業廃棄物の分別だ。この際、廃棄物を機械で地上に広げて大きく分け細かい仕分けは手作業で行うのだが、機械と作業者の距離が近く、接触事故が起こりやすいため、安全には細心の注意を払う必要がある。その点、SK75SRD-7R

は視界が広く、旋回半径も小さいのが強みだ。オペレータの平山三也さんはこう話す。

「これまでは後方確認を肉眼で行うことが多かったのですが、この機械ではそれをキャブ内カメラで確認しています。モニタが大きく見やすいため、以前より安全な操作が違和感なくできていると思います」(平山さん)

加えて、平山さんの実感によると、SK75SRD-7Rは従来使用していた他メーカーの機械よりも1クラス小さいながら、パワーの面で遜色はないようだ。また、キャブの快適性にも満足しているという。

産廃処分場の責任者である岩下茂樹さんは、「廃棄物が増える一方で、処分場の容量が限られているため、品目に関わらず、リサイクルや再利用に力を入れていきます」と語る。当然、その前段階である分別作業の重要性も高まるため、SK75SRD-7Rが力を発揮する機会は、今後ますます増えていくだろう。



永田重機土木株式会社

- 所在地：鹿児島県鹿児島市川上町2216番地1
- TEL：099-244-3388
- 創業：1967年
- 事業内容：土木工事、解体工事、産業廃棄物処理、アスベスト除去工(ウォータージェット工法)、重機回送
- 従業員：80名

こちらのQRコードから動画をご覧いただけます



KOBELCO

Blow out the dust.

SK75SRD

iNDr+J

産廃リサイクルの作業環境をより快適に！ 「iNDr+J」を搭載したあらたなラインナップ

コベルコ建機は、独自技術の冷却装置「iNDr」をさらに進化させました。これまでのノイズ（騒音）除去機能とダスト（塵・埃）除去機能に加え、iNDrフィルタに付着したゴミを機体外へ掃きだす「JET」機能を追加。防塵性・耐熱性の強化により、作業を止めて行うメンテナンスの頻度をより少なくし、過酷な産廃リサイクルの現場で働く方々の快適な作業をご提供します。これまでのSK75SRDに加え、新型SK135SRDに搭載しました。



SK75SRD



SK135SRD

コベルコ建機株式会社

東京本社 〒141-8626 東京都品川区北品川5-5-15
☎ 03-5789-2111 www.kobelco-kenki.co.jp

(2021年11月発行)